

# 奈良県の現状から推測した 理学療法士の需要予測

奈良県立医大 健康政策医学  
赤羽 学

## 背景

H26年時点での高齢化率は26.0%  
「65～74歳人口」は1,708万人で13.4%  
「75歳以上人口」は1,592万人で12.5%

今後も高齢者(特に後期高齢者)が増加し、入院や施設入所の  
需要が増加すると予測

それに伴い医療従事者の  
需要も増加すると推測される



## 目的

平成23年度の奈良県の現状から  
理学療法士の需要を予測する

## 方法

### 要介護認定者と施設入所需要の推計

1. 平成23年を基準とし、65歳以上の高齢者に対する介護認定者の割合を計算
2. 各年度の高齢者数と1.から、今後の要介護認定者を推計
3. 要介護認定者の14%が介護老人福祉施設、8%が介護老人保健施設に入所すると仮定して、施設入所需要を推計

### 入院需要と病床過不足の推計

1. e-Stat平成23年(2011)患者調査閲覧・表107の平成23年の5歳階級別入院患者数を基準とした
2. 平成23年10月1日現在の奈良県年齢5歳階級別人口総数と1.から平成23年の5歳階級別入院率(入院数÷人口×100%)を各階級別に計算
3. 国立社会保障・人口問題研究所のHPの各年の5歳別人口に入院率をかけて、各年の入院患者数を予測
4. e-Stat平成23年(2011)病院報告下巻G7の平成23年の病床数を基準とした
5. 各年の入院患者数推計と病床数から過不足を計算

### 病院における理学療法士需要の推計

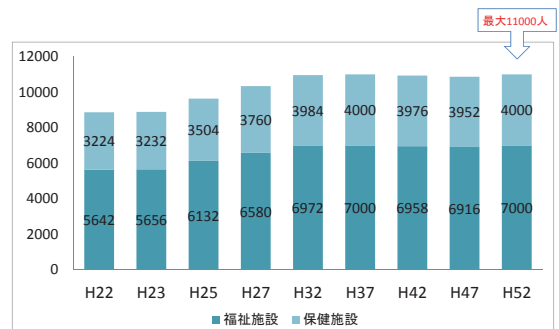
1. 平成23年の理学療法士数を平成23年の入院患者数(12,900人)で割り、療法士数の割合を計算
2. 平成23年の比率で療法士数が推移すると仮定し、各年度の理学療法士数を計算(各年の入院患者数×割合)

## 結果

### 要介護認定者の推計

	H22 (2010)	H23 (2011)	H25 (2013)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)
要支援1	8300	8300	9100	9700	10300	10300	10300	10200	10300
要支援2	10000	10000	10800	11600	12300	12400	12300	12200	12400
小計	18300	18300	19900	21300	22600	22700	22600	22400	22700
要介護1	9300	9300	10100	10800	11500	11500	11500	11400	11500
要介護2	10700	10700	11600	12500	13200	13300	13200	13100	13300
要介護3	8100	8200	8900	9500	10100	10100	10000	10000	10100
要介護4	6700	6700	7300	7800	8300	8300	8300	8200	8300
要介護5	5500	5500	5900	6400	6700	6800	6700	6700	6800
小計	40300	40400	43800	47000	49800	50000	49700	49400	50000
合計	58600	58700	63700	68300	72400	72700	72300	71800	72700

### 介護老人施設入所需要の推計

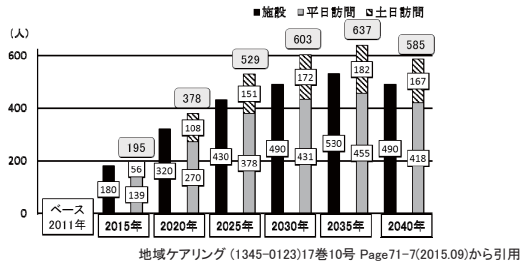


H23年の入所定員は9251人であり、施設数が増加しないと1750人分不足



## これまでの研究では、看護師需要も不足すると予測

高齢者の入院需要増による介護保険施設あるいは在宅看護における看護婦需要



本研究では、在宅でのリハビリ需要は考慮していないため  
さらに理学療法士の需要が増える可能性が高い

## ご清聴ありがとうございました

謝辞:  
本研究結果は、奈良医大リハビリテーション科の城戸顕先生、  
石田由佳子先生のご協力で得られた結果です 深謝いたします

## 結論

- 将来入院患者数は増加する予測となった
- 病床削減などもあり最大(H52)で4000床分の入院需要がオーバーする可能性がある。介護老人施設の増設で対応すると仮定すると、最大で理学療法士160人の需要が発生する
- 地域ごとにデータを分析し、医療の提供体制の構築に向けて需要を予測し対策していくことが重要である

